議 事 録

会議名	令和6年度 第3回 福岡市地域公共交通会議
日時	令和6年10月21日(月) 15時00分～15時40分
会場	エルガーラホール 7階 会議室1
議事概要	議題1 オンデマンド交通社会実験（エリア①）の試験運行について 議題2 生活交通に関する取組み状況について
発言者	発言要旨
事務局	●令和6年度第3回福岡市地域公共交通会議を開会する。 <委員紹介> ●会長を除き委員8名に出席いただいており、福岡市地域公共交通会議規則第6条第3項に基づき、本会議は成立した。 福岡市情報公開条例等に基づき、会議は原則公開としており、議事録については、後日、福岡市のホームページに掲載する。 本日の傍聴申し出はない。 議事の進行については、福岡市地域公共交通会議規則第6条第2項に基づき、会長にお願いする。
会長	○それでは、議題1について事務局より説明をお願いします。
事務局	●議題1「オンデマンド交通社会実験（エリア①）の試験運行について」 <説明>
会長	○ただいまの事務局からの説明について、ご意見・ご質問等はあるか。
委員	○1日当たり50人という目標だが、1年後の目標設定はどうしていくのか。
事務局	●地域等と協議し1日当たり50人を目標としており、引き続き取り組んでいくこととしている。議題2で報告予定だが、社会実験は今後の仕組みづくりに向けたものであり、利用者数も1つの目標ではあるが、収支率を目標設定として考えており、最低限の目標収支率として2割を検討している。
委員	○東区の収支率が既に29%であるが、目標を上積みするのではなく、この程度にするのか。

事務局	●市内3エリアのうちエリア①東区は、地域の機運もあり一番収支率が高くなっている。目標収支率2割について、目標に留まらず上積みも考えていくが、不便な地域での取組みを幅広く支援できるよう、最低限の目標収支率として2割で検討している。
委員	○Web 予約促進について、具体的にどのように進めるのか。
事務局	●インターネット予約はログイン時にパスワードが必要なこともあり、現在7割が電話予約という状況である。高齢者の方もLINEは使用しているという声も聞いており、LINEと連携することで、最初はパスワードが必要になるが、利用のきっかけをつくり、利用者増に繋げられればと考えている。
委員	○利用の多い時間帯で予約が埋まっている状況の対策について何かあるか。
事務局	●利用が増えてきた半面、予約が重なる時間帯に予約が取りにくいという声は届いている。直前の予約はなかなか取りにくくなるため、地域には事前予約を案内している。今後、Web予約を促進していきたいと考えており、その一つのツールとして、LINE活用を検討している。また、現在、ゆとりをもってシステム設定している乗降時間を短縮するなど、乗合率が高まるようなシステム設定変更も検討している。
委員	○そもそも1台で乗れるキャパを超えていることも考えられるが、その対策はどう考えているか。
事務局	●現状、乗り合いが多くて乗客定員オーバーで予約が取れないということは、発生していない状況である。面的に需要があるなかで、なかなか乗り合うような予約になっていない状況であり、改善検討していきたいと考えている。
委員	○試験運行として一定の到達点を目指すということで、一般的には本格運行に繋げていくと考えるが、先ほどの話では、モデルを作っていくという理解をした。本格運行への到達という意味では、当面、試験運行を続けていくという理解で良いか。
事務局	●議題2に関係するところもあるが、生活交通条例に基づく施策について市が補助していくこととしている。本格運行とするためには制度化していく必要があると考えており、まずは仕組みづくりに向けた社会実験に引き続き取り組んでいくが、新しい制度ができれば、その中で地域の皆様の意向も伺いながら運行していくこととなると考えている。

会長	○他にご意見・ご質問等はあるか。 (委員からの意見等なし) ○議題1「オンデマンド交通社会実験(エリア①)の試験運行について」は了承したいと思うが、よろしいか。 (委員からの異議等なし) ○それでは、福岡市地域公共交通会議として、議題1については了承とする。 ○次に、議題2について事務局より説明をお願いします。
事務局	●議題2「生活交通に関する取組み状況について」 <説明>
会長	○ただいまの事務局からの説明について、ご意見・ご質問等はあるか。
委員	○公共交通が不便な地域の基準はどうなっているのか。
事務局	●公共交通空白地をバス停や鉄道駅から1km離れた地域と定義しており、バス路線の休廃止に伴う公共交通空白地となる地域に対し、休廃止対策として代替交通を確保している。 公共交通が不便な地域については、バス停から500m、鉄道駅から1km離れた地域を公共交通不便地と定義しており、また、高低差が概ね40mあるところや迂回を要するところなどを、不便地に準ずる地域として取り扱っている。
委員	○バスの定義は、マイクロバスなども含むのか。
事務局	●定時定路線で走っているものは、マイクロバス車両でもバスとしている。
委員	○エリア①東区の収支率が運賃収入と協賛金収入で29%あるが、目標収支率2割は協賛金収入も含む形で考えているのか。
事務局	●協賛金などの運賃外収入も含む形で考えている。

委員	○エリア①は本格運行の目標収支率2割を超えているが、まだ実証運行として進んでいくのか。
事務局	●休廃止対策、不便地対策、生活交通確保支援を条例に基づく施策として制度化しているが、社会実験を踏まえ不便地対策の支援拡充を検討しているところである。まだ制度化されていない中での社会実験であり、本格運行に向けては制度変更をしていく必要があると考えている。制度化され、取り組むのであれば本格運行になっていくのではと考えている。
委員	○東、南、中央・城南の3エリアがあるが、それぞれで判断していくのか。
事務局	●エリア毎の収支率で判断していくことを考えている。各エリアの収支率を見ると、エリア③は運行形態が異なり曜日別運行をしており、右肩上がりではあるものの、まだ2割には到達していない。仮に制度化された場合は、最長3年間の取組みの中で、目標収支率を達成できれば本格運行に移行していく仕組みで考えている。
委員	○社会実験は車両数1台で実施しているが、需要があり必要な時は台数を増やしていいといった形で決めておかないと増車できないのか。2台になれば収支率は落ちるが、需要に応えながら運行していくことも社会実験の一つではないかと考える。一方では現に事業として運行しているバス・タクシーへの影響は多大にあると思うが。それも含めて、総合的に地域住民に寄与するということで判断されると思うが、台数を増やすなどの選択肢もあっていいのではないか。
事務局	●社会実験地区の利用が増えてきたところではあるが、利用が増えると予約が取りづらいとして、満足度の評価が下がってきているところもあり、地域からも2台にできないかという声は出てきている。今後、台数をどうするかについて検討していく必要はあると思う。
委員	○既に運行しているバス路線は、新しい支援の枠組みに入ることができるのか。あくまで実証実験から新たに始まるものが支援の枠組みに入るのか。例えば壱岐南のーとや長丘高宮循環などは既に運行しているが、新しい支援の枠組みに入れてもらうことができるのか。 また、仮にバス路線の休廃止により交通空白地ができる場合に、他モードへの転換を頭に入れながら運行計画を考えていくべきだと考えるが、その場合に事前に相談することで新しい支援の枠組みに入れることはできるのか。今から補助金など支援があるものとして考えていくことができるのか、それとも実証してから初めてスタートになるのか。

事務局	●検討中の制度の中で既存の取組みをどう取り扱うかについては、個別に検討が必要と考えている。 また、距離要件によって枠組みは変わってくるが、仮に休廃止が出てくる際に、1 km以上の空白地が発生するなら休廃止対策の取組みになり、空白地が無くバス停から 500m離れた不便地になるようなところがあれば、不便地対策の取組みになるものと考えている。
委員	○交通モードを移管する際は空白期間がないようにした方が望ましく、そこを配慮して策定いただきたい。
会長	○他にご意見・ご質問等はあるか。 (委員からの意見等なし) ○議題2については以上とする。 ○その他全体を通して意見等はあるか。 (委員からの意見等なし) ○以上で議事については終了し、進行を事務局にお返しする。
事務局	●本日協議が整った、「オンデマンド交通社会実験（エリア①）の試験運行について」は、所定の手続きを進める。 ●議事録については会議資料とともに公開するため、委員の皆様には後日議事録の確認をお願いします。 ●本日の会議は以上で閉会する。